

## ホームルーム/ビジネスマナー

### 授業の目的・概要

本授業では、動物業界で求められる社会人としての基本的なビジネスマナーとコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。挨拶や敬語、お辞儀、電話応対、ビジネス文書・メール作成などの基礎を実践的に学ぶとともに、自己分析や履歴書作成、模擬面接を通して就職活動に必要な力を養う。また、研修旅行や業界セミナーの事前・事後学習を行い、動物業界の仕事内容や企業理解を深める。講義に加え、グループワークやロールプレイングを取り入れることで、主体性や協調性、実践的な接客能力を身につけ、社会で活躍できる人材の育成を目指す。

|      |                |         |             |
|------|----------------|---------|-------------|
| 科目名  | ホームルーム/ビジネスマナー | 教員      | 市川 華香       |
| コース  | 動物看護師コース       | 教員の実務経験 | 愛玩動物看護師 7 年 |
| 対象年次 | 1 年            | 年間単位数   | 1 単位        |

### 目標

#### 前期

- ・動物に関する職業に就く際の心構えを習得し、動物看護師だけでなく、動物業界を理解できるようになる。
- ・立ち方やお辞儀の仕方などの所作を身につける。
- ・敬語(丁寧、謙譲語、尊敬語)の差別化をして理解し話せるようになる。

就職活動やインターンシップでの重要となる書類である履歴書とお礼状。この2つの書き方やマナーを知り、正しく書けるようになる。

- ・電話対応など全般的なビジネスマナーを習得することができる。

#### 後期

- ・動物看護師国家試験受験に向け、心構え・試験対策の土台をつくることができる。
- ・スーツの着方(男性の場合は身だしなみやネクタイの結び方など、女性の場合も身だしなみやアクセサリなど)の違いと正解を区別できるようになる。

・現代の最新のビジネスマナーでもあるリモートワークマナーを知る。席次(上座と下座)、名刺交換の基本を理解し実践ができるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

- 第1回 自己紹介(自分の長所、短所、趣味など面接でよく聞かれる項目も入れて発表を行う)
- 第2回 学校でのエレベータの使い方、受付の利用の仕方、校舎見学、
- 第3回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ(グループワーク)
- 第4回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討
- 第5回 研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有
- 第6回 研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題
- 第7回 研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深
- 第8回 動物業界セミナー事前学習①(企業研究編)
- 第9回 動物業界セミナー事前学習②(質問準備・マナー編)
- 第10回 ビジネス会話の基本(敬語について、定番の言い回し、クッション言葉)・実践
- 第11回 会社での挨拶の仕方、立ち方、お辞儀の基本、椅子の座り方、入退室の基本・実践
- 第12回 求人票の見方
- 第13回 夏休みの過ごし方・勉強の仕方について
- 第14回 電話対応・実践回 ビジネス文章(紙・メール)・実践
- 第15回 履歴書の書き方・実践
- 第16回 前期試験
- 第17回 ビジネス文章(紙・メール)作成課題
- 第18回 試験返却・試験の振り返り

### 【後期】

- 第19回 仕事内容理解①—就職先に想定される職種(含 研修旅行事前学習)
- 第20回 仕事内容理解②—職種別業務内容(含 研修旅行事前学習)

- 第 21 回 仕事内容理解③—1 日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 第 22 回 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 第 23 回 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 第 24 回 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 第 25 回 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 第 26 回 自己分析の深掘り（履歴書フィードバック）
- 第 27 回 お礼状の書き方・実践
- 第 28 回 封筒の書き方・送り方
- 第 29 回 業界マナー応用編（電話応対・メールの書き方）
- 第 30 回 模擬面接（グループワーク）
- 第 31 回 後期試験
- 第 32 回 国家試験問題配布
- 第 33 回 試験返却・試験の振り返り
- 第 34 回 愛玩動物看護師国家試験について
- 第 35 回 春休みの過ごし方・勉強の方法を再度伝える

#### 授業の方法

本授業は、講義による知識習得に加え、グループワークやロールプレイングを中心とした演習形式で進める。

講義：動物業界の現状やビジネスマナーの基礎知識を解説する。

演習・実技：挨拶、お辞儀、電話応対などのマナー実践、および自己分析や企業研究のワークシート作成を行う。

#### 教材

特定のテキストは使用せず、授業の内容に合わせ、最新の業界動向や求人情報を反映させた自作のプリント資料を通宜配布する。また、必要に応じて動画教材や就職活動に関連する各種フォーマット（履歴書等）を使用する。

#### 評価の方法

試験点（80％）： 前期および後期の学期末試験の結果。授業内で扱ったビジネスマナー、業界知識、就職活動の基礎知識等の理解度を問う。

平常点（20％）： 授業内課題（企業研究シート、履歴書下書き等）の提出状況および内容、ならびに授業への出席状況や受講態度（グループワークへの貢献度など）

#### 授業外での学習方法

校内やプライベートでも意識して実践をする。例えばエレベータにて席次を意識して乗る事。先生やアルバイト先の先輩・店長など常日頃、敬語(丁寧語、尊敬語)を意識して話すなど。国家資格受験に向け日ごろから他教科の復習を行う習慣をつける

#### 実務経験と授業科目の関係

愛玩動物看護師としての実務経験に基づき、動物医療の現場で求められる接遇およびコミュニケーションの重要性を指導する。動物業界特有の就職活動の流れや、採用側がチェックするポイント（清潔感・責任感・観察眼など）を授業に反映させ、学生が自信を持って業界セミナーや実習に臨めるよう実践的な指導を行う。

# コンピューター実習 I

## 授業の目的・概要

**Microsoft Word:** 基本的なビジネス文書の作成から、外部アプリケーションとのデータ連携（差し込み印刷等）に至るまで、実務に即した諸機能を習得する。

**Microsoft Excel:** 表計算の基礎からデータベース機能を活用した一連の操作を学習し、目的に応じた適切なデータ分析を行うための技術を習得する。

**Microsoft PowerPoint:** 効果的なプレゼンテーション資料の作成から、スライドショーを用いた説得力のある発表技術まで、一連の機能を習得する。

|      |          |         |                           |
|------|----------|---------|---------------------------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 大西 望                      |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | 講師経験：10 年、PC サポート<br>13 年 |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 1 単位                      |

## 目標

### 前期：

- パソコン操作に必要なマウス操作、タッチタイピングの習得
- Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションの作成を行える。
- Microsoft Word を使用して、ビジネス文書の作成が行える。

### 後期：

- Microsoft Excel を使用して、計算式・関数の計算、グラフの作成を行える。

## 授業計画

### 前期

第 0 1 回：オリエンテーリング授業概要、評定基準、Google 共有ドライブ「2026 年度」の使い方

第 0 2 回：Windows の概要、フォルダとファイルの管理、マウス操作

第03回:PowerPoint(1) PowerPointの概要、起動、画面構成、表示モード、新規作成、テーマの適用、プレースホルダーを操作する、新しいスライドを挿入する、箇条書き

第04回:PowerPoint(2) 図形の挿入、SmartArt、練習問題

第05回:PowerPoint(3) スライドショー実行、画面切り替え、アニメーション、プレゼンテーションの印刷、発表者ツールを使用、練習問題

第06回:PowerPoint(4) PowerPointの振り返り

第07回:Word(1) 作成する文書を確認する、ページレイアウト、文書入力、文字の削除、挿入

第08回:Word(3) 段落とフォントの調整コピー、移動、文書の保存、文章の書式を設定、文書の印刷、練習問題

第09回:Word(4) 文書作成の振り返り

第10回:Word(5) ワードアート、画像データの挿入、文字列の折り返し、トリミング、サイズと位置の調整、

第11回:Word(6) 表現力のある文書を作成しよう②オブジェクト、画像挿入の振り返り

第12回:Word(7) 表のある文書を作成しよう表の作成、レイアウト、書式設定

第13回:Word(7) 表のある文書を作成しよう①第3、4章の振り返り、答え合わせ

第14回:Word(8) 表のある文書を作成しよう②第3、4章の振り返り、答え合わせ

第15回:Word(9) 期末試験対策

第16回:確認テスト

第17回:自主学習: Wordでポスターを作る方法をレポートにまとめる。

第18回:前期期末試験の返却

## 後期

第19回 :後期授業概要、評価基準

第20回 :Excel(1) Excelの概要、起動、画面構成、新規作成、データや数式の入力、オートフィル、書式のコピー

第21回 :Excel(2) データや数式の入力の振り返り

第22回 :Excel(4) オート SUM 関数、相対参照と絶対参照、表の書式設定、行列操作、印刷

- 第 23 回 :Excel (6) 関数や相対参照と絶対参照の振り返り
- 第 24 回 :Excel (7) 円グラフ、縦棒グラフの作成
- 第 25 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 26 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 27 回 :Excel (9) テーブル機能、並び替え、フィルター、条件付き書式
- 第 28 回 :Excel (10) データベース機能の振り返り
- 第 29 回 :Word の差し込み印刷
- 第 30 回 :外部アプリからのデータを貼り付け
- 第 31 回 :Excel (11) 期末試験対策①データ入力、関数、グラフの振り返り
- 第 32 回 :Excel (12) 期末試験対策②データベース機能の振り返り
- 第 33 回 :確認テスト
- 第 34 回 :自宅学習②各種類のグラフの用途をレポートにまとめる
- 第 35 回 :確認テスト返却

#### 授業の方法

コンピューターによる演習

#### 教材

『よくわかる Word2024 & Excel2024 & PowerPoint2024 Office2024/Microsoft365 対応』  
(株式会社富士通ラーニングメディア、2025 年 4 月 13 日、ISBN978-4-86775-152-7)

#### 評価の方法

平常点、試験点をそれぞれ 100 点満点で成績を集計し、評価する。

- 平常点：Google 共有ドライブ「2026 年度」内に指定のファイルがあることことこと
- 試験点：前期・後期期末試験で集計した成績

#### 授業外での学習方法

授業範囲の操作内容を確認し、Word・Excel・PowerPoint の基本機能や用語を事前に理解しておくことも

に、授業で学んだ操作を復習し、課題や練習問題を通して基本操作を繰り返し実践する。

#### 実務経験と授業科目の関係

官公庁や教育機関での豊富な指導経験を基に、単なる機能紹介に留まらず、業務のスピードアップに直結する Microsoft アプリの効率的な活用法を伝授します。

事務処理や資料作成の現場で培った「ミスなく早く仕上げる」ための実戦ノウハウを共有し、実社会で通用する即戦力の育成を目指します。

## 資格対策

### 授業の目的・概要

本授業では、動物業界で必要とされる各種資格取得を目指し、試験対策を通して専門知識と実務能力の向上を図る。サービス接客検定や愛玩動物飼養管理士を中心に、動物に関する基礎知識、行動学、栄養学、愛護・法規、生活環境学など幅広い分野を学習する。また、模擬試験やマークシート課題を繰り返し実施することで、試験形式への理解を深め、解答力や実践力を養う。さらに、接客マナーや対人技能についても学び、動物業界で求められる社会人基礎力を身につけることを目的とする。

|      |          |         |                              |
|------|----------|---------|------------------------------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 萩野                           |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | 愛玩動物飼養管理士/サービス<br>接客検定共に2級所持 |
| 対象年次 | 1年       | 年間単位数   | 2単位                          |

### 目標

資格試験に合格することができる。

サービス接客検定⇒模擬テスト各回6割以上の正答率を取ることができる。

愛玩動物飼養管理士⇒受験資格の取得(講習会と課題提出の達成)、模擬テスト各回8割以上の正答率を取ることができる。

### 授業計画

- 1回 オリエンテーション(受験申込書記入/試験概要の説明(愛玩含む))
- 2回 試験範囲の配布(サービススタッフの資質、専門知識、一般知識、対人技能、実務技能)
- 3回 試験範囲対策及び説明
- 4回 模擬テスト①
- 5回 模擬テスト②
- 6回 模擬テスト③
- 7回 模擬テスト④
- 8回 オリエンテーション(教科書配布/スクーリング講習と提出課題の告知/マイページ作成)
- 9回 スクーリング講習①
- 10回 スクーリング講習②
- 11回 スクーリング講習③
- 12回 マークシート課題実施期間①
- 13回 マークシート課題実施期間②
- 14回 マークシート課題実施期間③
- 15回 マークシート課題実施期間④(提出日)

- 16 回 問題集解答及び解説配布
- 17 回 デジタル講義(行動学・栄養学)
- 18 回 デジタル講義(愛護・法規)
- 19 回 デジタル講義(動物学・指導論)
- 20 回 デジタル講義(生活環境学・産業概論)
- 21 回 模擬テスト期間①
- 22 回 模擬テスト期間②
- 23 回 模擬テスト期間③
- 24 回 模擬テスト期間④
- 25 回 試験直前案内及び総復習
- 26 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 27 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 28 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 29 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 30 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策

#### 授業の方法

講義も交えつつ、模擬テストを繰り返し行い試験日までに合格ラインに到達する。

#### 教材

サービス接遇検定実問題集/愛玩動物飼養管理士教本 2 冊/スクーリング資料/課題報告問題集

#### 評価の方法

期末試験 50%。授業の取り組み意欲/出席率 50%

#### 授業外での学習方法

サービス接遇検定実問題集の解答を行う。

愛玩動物飼養管理士のスクーリング講習を受講し、課題報告問題を解きマークシートに解答する。

#### 実務経験と授業科目の関係

愛玩動物飼養管理士/サービス接遇検定共に 2 級所持。問題の傾向や解答の進め方などのリアルな対策の仕方を伝える。

## 人間形成概論

### 授業の目的・概要

本授業では、社会人として必要な人間関係構築力やコミュニケーション能力を養い、自身の成長や他者理解を深めることを目的とする。パーソナリティや対人認知、コミュニケーション、ストレス対処法、動機付け、リーダーシップなど心理学的視点を基礎から学習する。また、ディスカッションやグループワーク、アサーショントレーニング、カウンセリング演習などを通して、他者との関わり方や自己表現力を実践的に身につける。さらに、自分自身を振り返る機会を設けることで、自己理解を深め、動物業界を含む社会で円滑な人間関係を築ける人材の育成を目指す。

|      |          |         |                |
|------|----------|---------|----------------|
| 科    | 動物看護学科   | 教員      | 長岡 真美<br>森田 陵介 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | なし             |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 1 単位           |

### 目標

多種多様な価値観を持つ他者の存在を認め、円滑な対人関係を築くための基本的な視点を養うとともに、グループワークや用語を知り、自身がどのような環境や経験を経て、現在の価値観を形成してきたかを分析することができる。

### 授業計画

- 1 回 講師の自己紹介、生徒同士の自己紹介
- 2 回 ディスカッションのやり方・PREP 法について
- 3 回 パーソナリティについて
- 4 回 対人認知 ステレオタイプ(1)-対人認知について
- 5 回 対人認知 ステレオタイプ(2)-原因帰属、対人魅力について
- 6 回 人間関係とコミュニケーション(1)-人間関係、コミュニケーションについて

- 7 回 人間関係とコミュニケーション(2) -言語的 or 非言語的コミュニケーションをグループで学ぶ
- 8 回 インターネット依存症について
- 9 回 感情について
- 10 回 ストレスについて(1) -ストレスとは
- 11 回 ストレスについて(2) -ストレスへの対処法とは
- 12 回 人生曲線を書き、過去と未来の自分を見つめてみる
- 13 回 アサーショントレーニングについて
- 14 回 前期まとめ(1) -前期授業のまとめ
- 15 回 前期まとめ(2) -前期内容についてのまとめ問題を実施
- 16 回 前期試験
- 17 回 前期試験返却/フィードバック
- 18 回 援助行動、要請に関する社会的スキル
- 19 回 交流分析とマインドフルネス(1) -コミュニケーションを理解する観察法
- 20 回 交流分析とマインドフルネス(2) -交流パターンの分析について
- 21 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -カウンセリングと悩み相談について
- 22 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -グループワークで実際に悩み相談を行って学ぶ
- 23 回 動機付け(1) -欲求、動機付けについて
- 24 回 動機付け(2) -情動、自己効力感について
- 25 回 集団について(1) -集団規範とは
- 26 回 集団について(2) -他者から与えられる影響について
- 27 回 コーチングについて
- 28 回 リーダーシップ(1) -リーダーシップの歴史について
- 29 回 リーダーシップ(2) -仕事での集団の形について
- 30 回 人間関係を難しくする障害
- 31 回 後期まとめ(1) -後期授業のまとめ
- 32 回 後期まとめ(2) -後期内容についてのまとめ問題を実施

33 回 後期試験

34 回 後期試験返却/フィードバック

35 回 1 年間の総まとめ

#### 授業の方法

講義、問題についてのレポートや討論、グループワーク

#### 教材

山崎圭輔 本田周二『メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論』（南山堂、2021 年）  
ISBN 978-4-525-50451-9

#### 評価の方法

試験 80%、授業への参画 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているのかを意識することと、

試験へ向けて、授業で出てきた用語をまとめる。

#### 実務経験と授業科目の関係

授業で出てくる用語は、社会で生きていく上での人間関係構築に関することが多くある。

教員の実体験を含めながら説明していく。

## アニマルアクティビティ

### 授業の目的・概要

本授業では、動物との適切な関わり方やアニマルアクティビティの実践方法を学び、動物と人との良好な関係構築に必要な基礎的能力を養うことを目的とする。犬・猫・小動物などの行動特性やストレスサインを理解し、安全かつ動物福祉に配慮した接し方を身に付ける。また、動物介在活動の基礎やレクリエーション活動の企画・運営方法について学び、対象者や目的に応じたプログラムを考案できる力を育成する。さらに、高齢者施設や教育現場など多様な場面を想定した活動設計を通して、コミュニケーション能力とチームワークを高め、動物を介した社会貢献活動に必要な実践力を修得する。

|      |               |         |      |
|------|---------------|---------|------|
| 科    | 生命科学科         | 教員      | 荻野   |
| コース  | ドッグスペシャリストコース | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年次          | 年間単位時間  | 1 単位 |

### 目標

- ・犬・猫・小動物の行動特性およびストレスサインを理解し説明できる。
- ・動物福祉に配慮した安全なアニマルアクティビティの方法を身に付ける。
- ・対象や目的に応じた動物介在活動のプログラムを企画・立案できる。
- ・動物を介した活動において必要なコミュニケーション能力と協働力を身に付ける。

### 授業計画

|       |                                                   |
|-------|---------------------------------------------------|
| 第 1 回 | 前 期 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン                             |
| 第 2 回 | 動 物 と の 関 わ り 方 と 安 全 管 理 の 基 礎                   |
| 第 3 回 | 動 物 の 行 動 観 察 ( 基 本 姿 勢 と 記 録 方 法 )               |
| 第 4 回 | 犬 と の 基 礎 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ( 接 し 方 ・ サ イ ン 理 解 ) |
| 第 5 回 | 犬 を 用 い た ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 ( 基 礎 )               |
| 第 6 回 | 猫 の 行 動 特 性 と ス ト レ ス サ イ ン の 理 解                 |

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 第 7 回  | 猫との適切な接し方と環境づくり         |
| 第 8 回  | 小動物（ウサギ・モルモット等）とのふれあい実践 |
| 第 9 回  | 動物福祉（アニマルウェルフェア）の基礎     |
| 第 10 回 | 高齢動物との関わり方と配慮           |
| 第 11 回 | 動物を用いたリラクゼーション活動の理解     |
| 第 12 回 | チームで行うアクティビティ企画（基礎）     |
| 第 13 回 | アクティビティ実践（グループ活動①）      |
| 第 14 回 | アクティビティ実践（グループ活動②）      |
| 第 15 回 | 前期まとめ（実践振り返り）           |
| 第 16 回 | 前期試験                    |
| 第 17 回 | 試験返却/フィードバック            |
| 第 18 回 | 後期オリエンテーション             |
| 第 19 回 | 動物介在活動（AAA）の基礎理解        |
| 第 20 回 | 動物介在教育（AAE）の事例学習        |
| 第 21 回 | 動物介在療法（AAT）の基礎理解        |
| 第 22 回 | 施設内アクティビティの企画立案         |
| 第 23 回 | 高齢者施設における動物活動の理解        |
| 第 24 回 | 児童向け動物ふれあい活動の設計         |
| 第 25 回 | ストレス軽減を目的とした活動プログラム     |
| 第 26 回 | 動物と人の安全管理（リスクマネジメント）    |
| 第 27 回 | 動物の健康管理と活動前チェック         |
| 第 28 回 | コミュニケーションと接遇（利用者対応）     |
| 第 29 回 | アクティビティ実践（グループ活動③）      |
| 第 30 回 | アクティビティ実践（グループ活動④）      |
| 第 31 回 | 年間活動の総合企画発表             |
| 第 32 回 | 総括・次年度に向けた改善検討          |
| 第 33 回 | 後期試験                    |

第 34 回 試験返却/フィードバック

第 35 回 1 年間の総まとめ

#### 授業の方法

講義形式を中心に説明をしていくが、グループワークや実践的な学習も一部取り入れていく。

#### 教材

必要な資料等は授業中に配布していく。

#### 評価の方法

試験 60 パーセント、授業への参画 20%、課題提出 20%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事前学習として、動物の行動特性やストレスサイン、基本的な接し方について教科書や資料を用いて予習し、授業内容の理解を深める準備を行う。事後学習としては、授業で実施したアクティビティや観察内容を振り返り、記録・整理することで理解を定着させるとともに、改善点や気づきをまとめ実践力の向上につなげる。

#### 実務経験と授業科目の関係

ペット関連企業の運営経験を有しており、現場で求められる動物との接し方やサービス提供の実践的視点を授業内容に反映している。動物福祉や安全管理、利用者対応など、実務に即したアニマルアクティビティの企画・運営方法を学ぶことで、業界で即戦力となる実践的能力の育成に寄与する。

## エキゾチックアニマル

### 授業の目的・概要

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要 4 種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

|      |          |         |       |
|------|----------|---------|-------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 演崎 裕矢 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | -     |
| 対象年次 | 1 年次     | 年間単位数   | 2 単位  |

### 目標

#### 前期

エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得することができる。

ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。

#### 後期

ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明することができる。

飼育動物の基礎知識を固めることができる。

### 授業計画

第 1 週 エキゾチックアニマルとは

第 2 週 ペットの適性について

第 3 週 ハムスターについて（分類、歴史）

第 4 週 ハムスターについて（体の特徴、前軀）

第 5 週 ハムスターについて（体の特徴、後軀）

第 6 週 ハムスターについて（生理的な特徴）

- 第7週 ハムスターについて（飼育方法）
- 第8週 ハムスターについて（繁殖）
- 第9週 ハムスターについて（飼育要因の疾病）
- 第10週 ハムスターについて（感染症）
- 第11週 モルモットについて（分類・歴史）
- 第12週 モルモットについて（体の特徴、前軀）
- 第13週 モルモットについて（体の特徴、後軀）
- 第14週 モルモットについて（生理的な特徴）
- 第15週 モルモットについて（飼育方法）
- 第16週 モルモットについて（飼育要因の疾病）
- 第17週 モルモットについて（感染症）
- 第18週 ウサギについて（分類・歴史）
- 第19週 ウサギについて（体の特徴）
- 第20週 ウサギについて（生理的な特徴）
- 第21週 ウサギについて（飼育方法・繁殖）
- 第22週 ウサギについて（成長過程）
- 第23週 ウサギについて（飼育要因の疾病）
- 第24週 ウサギについて（感染症）
- 第25週 フェレットについて（分類・歴史）
- 第26週 フェレットについて（体の特徴、前軀）
- 第27週 フェレットについて（体の特徴、後軀）
- 第28週 フェレットについて（生理的な特徴）
- 第29週 フェレットについて（飼育方法）
- 第30週 フェレットについて（病気）

板書した内容を教科書・自作プリント・生体を用いて内容を解説していく

#### 教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル哺乳類編第三版—種類・生態・飼育・疾病—

⇒著者：霍野 晋吉、横須賀 誠 発行所：緑書房 発行年：2022 年 1 月 20 日

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをまとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

#### 実務経験と授業科目の関係

・

# グルーミング概論実習

## 授業の目的・概要

シャンプー犬種のグルーミングの意義を理解し、実際に犬の爪切り、バリカン、耳掃除、ブラッシング、シャンプー、ドライイング、足回りカット、リボン付けを行い、犬の保定の仕方や犬の扱い方、グルーミングの基礎を学ぶ。学生同士協力し、周りに気を配りながら実習を行うことで、コミュニケーション能力と協調性を兼ね備えた人材を目指す。

|      |          |         |              |
|------|----------|---------|--------------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 坂本 亜由美・呉坪 静香 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | トリマー20年      |
| 対象年次 | 1年       | 年間単位数   | 4単位          |

## 目標

### 前期

グルーミング道具の使い方、用途を理解し、2人で1頭仕上げる事が出来るようになる。

ハサミの動かし方、犬の保定方法、犬の扱い方、消毒の作り方、掃除の方法を理解し身に付ける。

### 後期

犬に負担がかからないように仕上げられるスキルを取得する。

## 授業計画

- 1回 座学①(グルーミングとは、道具配布・説明、ブラッシング、コーミング)
- 2回 座学②(耳掃除、爪切り、クリッピング、ペーディング、トリミング、ドライイング、道具によるケア、足周り、ハサミ、犬の体・骨格について)
- 3回 座学③(体調チェック・事故報告書、預かり用品・体調チェック表、消毒液の希釈方法、服装、準備方法、道具の片づけ方法、掃除諸注意、ウイッグ 梳き、綿花巻き方、箱作り、バリカンの手入れ方法)
- 4回 座学④(実習室案内、リボン付け、ラップ紙、道具に名前・小分け容器チェック)
- 5回 モデルグルーミング(チワワシャンプーコース見学)
- 6回 初グルーミング実習(3人で1頭) 実習の流れの理解、体調チェック、ブラッシング
- 7回 グルーミング実習(3人で1頭) 体調チェック～ブラッシングの復習
- 8回 グルーミング実習(3人で1頭) 体調チェック～ブラッシング、シャンプー、ドライイング
- 9回 グルーミング実習(2～3人で1頭) 体調チェック～ドライイングの復習
- 10回 グルーミング実習(2～3人で1頭) 体調チェック～ドライイング、耳掃除
- 11回 グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～耳掃除の復習
- 12回 グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～耳掃除、爪切り
- 13回 グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～爪切りの復習
- 14回 グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～爪切り、バリカン
- 15回 グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～バリカンの復習

- 16回 前期試験、グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～バリカン、ハサミ練習開始
- 17回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～バリカン、足回りカット
- 18回 試験返却、試験の振り返り、グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足回りカットの復習
- 19回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～足回りカット、リボン付け
- 20回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付けの復習
- 21回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、時間を計る
- 22回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 150分
- 23回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 140分
- 24回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 130分
- 25回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 120分
- 26回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 110分
- 27回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 100分
- 28回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、飛節下カット
- 29回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～飛節下カットの復習
- 30回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～飛節下カット、手根球下カット
- 31回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～手根球下カットの復習
- 32回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 165分
- 33回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 155分
- 32回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 145分
- 33回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 135分
- 34回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 125分
- 35回 グルーミング実習（1～2人で1頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 115分

#### 授業の方法

資料を使いグルーミングの基礎となる使い方や道具の名前、準備や掃除の行い方を教える。

ブリーダーやモデル犬を使用し実技実習を行う

#### 教材

グルーミング用品・講義プリント(グルーミングとは、各工程の意義、道具の扱い方、準備や掃除の方法)

#### 評価の方法

定期試験（実技）30%、授業態度（意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%）70%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

グルーミングの手順や掃除の手順、消毒の希釈方法をレポート用紙に書き出し整理する。

#### 実務経験と授業科目の関係

ペットショップ、トリミングサロン、動物病院にて 20 年間トリマーとして勤める。  
技術的な指導はもちろん、接客や看護のスキルも学生に教授することができる。

## コンパニオンキャット

### 授業の目的・概要

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれると、思われるようになる為に学習する。

|      |          |         |       |
|------|----------|---------|-------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 上田阿由美 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | ○     |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 1 単位  |

### 目標

#### 前期

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来る。

分かり易く的確に説明することができる。

猫種名・猫と犬を比較して説明することができる。

#### 後期

飼い主の条件・純血種のタイプ・遺伝病・健康チェック・自宅に迎える準備、迎えて時の対応の仕方、猫のシャンプー、猫種のスタンダードを理解することができる。

### 授業計画

#### 前期

- 1 回目 オリエンテーション（講師の自己紹介・授業の目的、内容、授業を受ける態度、提出物の期日厳守、評価の出し方）アンケート用紙を渡し来週提出するように説明する。
- 2 回目 CFA 公認猫種カラーコピーを配布、学生に猫名を記入させる（コンパニオンキャットの授業の時は必ず持参する）

- 3回目 猫の歴史（猫の起源、日本猫の歴史）を講義する。
- 4回目 猫の起源に似ていると言われている、アビシニアン・ソマリ・シンガプーラ（ティクドの毛色の猫種 アビシニアン・ソマリ・シンガプーラ）を説明する。
- 5回目 提出したアンケートの質問にある「ベトロス」「猫の外飼い」「避妊・去勢手術」について講義する。
- 6回目 FIV(猫エイズ)について講義する。純血種/MIX の定義、多胎性を講義する。
- 7回目 LH/SH・MALE/FEMALE の性格・飼い方等の違い、LH/SH の毛の長さの遺伝の仕方を説明する。
- 8回目 猫と犬の違い① 全般・習性・体型・感触（皮膚）説明する。
- 9回目 猫と犬の違い② 歯（スケアリング）・腸管・爪を説明する。
- 10回目 猫と犬の違い③尾（感情表現）スタンダード（ジャパニーズボブテール・トイボブ・アメリカンボブテール・マンクス）を説明する。
- 11回目 猫と犬の違い④ 体臭・排泄物・種類・毛色の説明をする。
- 12回目 猫と犬の違い⑤ 繁殖機能を説明する。
- 13回目 行動学① 運動機能・舌・鼻・髭を説明する。
- 14回目 行動学② 目・耳・鼻・内臓を説明する。
- 15回目 行動学③ 年齢・体感・夢を説明する。
- 16回目 前期試験
- 17回目 前期試験返却/フィードバック
- 後期**
- 16回目 ベットの飼い主の条件、「トキシプラズマ症」を説明する。
- 17回目 純血種の4つのタイプ ベットタイプ・ブリーディングタイプ（遺伝病 PKD/心筋症）を説明する。
- 18回目 ショータイプ・トップショークオリティータイプを説明する。
- 19回目 健康チェック① 行動・目・コート（真菌症）を説明する。
- 20回目 健康チェック② 寄生虫・耳・骨格・腹の膨らみ（猫伝染性腹膜炎）の説明をする。

- 2 1 回目 健康チェック③ 肛門・尾・歩行・口腔内を説明する。
- 2 2 回目 自宅に猫を迎える準備・用品の選び方を説明する。
- 2 3 回目 自宅に猫を迎えた時の注意① 家族の対応の仕方を説明する。
- 2 4 回目 自宅に猫を迎えた時の注意② 餌・名前・トイレのしつけなどの説明をする。
- 2 5 回目 猫のシャンプー① 犬と猫の目的の違い、扱いの違いを説明する。
- 2 6 回目 猫のシャンプー② 犬と違う作業の順番を説明する。
- 2 7 回目 猫のシャンプー③ より早く作業を行う為にどうするかを説明する。
- 2 8 回目 自宅課題（内容未定）
- 2 9 回目 CFA 公認猫種 DVD①を見せながら、スタンダードの説明をする。
- 3 0 回目 公認猫種 DVD②を見せながら、スタンダードの説明をする。
- 3 3 回目 後期試験
- 3 4 回目 後期試験返却/フィードバック
- 3 5 回目 1 年間の総まとめ

#### 授業の方法

座学（講義）

#### 教材

CFA 公認猫種カラープリント

アメリカンショートヘア・オリエンタルタイプの猫・ベルシャのスタンダードのプリント

#### 授業外での学習方法

提出物として、宿題を出す場合がある。（内容は未定）

機会があればキャットショーの見学

#### 評価の方法

初回の授業で、評価の出し方を学生に伝える。

平常点（出席率・授業中の態度・意欲）

提出物 小テスト

2026 年度

前期・後期テスト

%は小テストその他で回数が決定していないので、未定です。

#### 実務経験と授業科目の関係

昭和 52 年～純血猫種のブリーディング

平成 3 年～10 年まで、猫と犬のグルーミングサロン経営

平成 9 年～令和 4 年まで、CFA 所属「がんば神戸キャットクラブ」代表

神戸学園動物系開校から非常勤講師

平成 11 年～現在に至る CFA (U.S.A) 公認インターナショナルオールブリードジャッジ

## コンパニオンドッグ

### 授業の目的・概要

犬に関わる職業において必要な犬種ごとの特徴や対応を学び、犬を理解するとともに、将来の仕事において、お客様への情報提供やサービス、接客にて役立つ知識として習得する。また、実習実習においてこの授業で得た基礎知識を応用し、実際に犬と関わるうえで犬の扱い方や適切な対応を考えて、実践として繋げて経験値を高め、就職した際、犬との関係性構築に役立てる。

|      |          |         |      |
|------|----------|---------|------|
| 科    | 動物看護士学科  | 教員      | 稲岡 愛 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

- ・JKCでのグループ分けを学ぶ。特性などを学び全 10 グループの違いを説明できるようになる。
- ・人気犬種（約種）犬の写真を見て犬種名、それぞれの犬種の特徴（外見の特徴、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性）などを学び、外見を見て犬種名、犬種の特徴を一般の方が理解できるレベルで説明できるようになる。

### 授業計画

- 1 回 授業の説明、コンパニオンドッグとは？、グループ分け①-第1グループ
- 2 回 グループ分け②-第2グループ、第3グループ
- 3 回 グループ分け③-第4グループ、第5グループ
- 4 回 グループ分け④-第6グループ、第7グループ
- 5 回 グループ分け⑤-第8グループ、第9グループ
- 6 回 グループ分け⑥-第10グループ/「犬種」を学ぶことの重要性/犬種学習①-ブードル、
- 7 回 犬種学習②-チワワ、ダックスフンド、
- 8 回 犬種学習③-ボメラニアン、ミニチュア・シュナウザー

- 9 回 犬種学習④-フレンチ・ブルドッグ、マルチーズ
- 10 回 犬種学習⑤-ヨークシャー・テリア、柴
- 11 回 犬種学習⑥-シー・ズー、ゴールデン・レトリバー、ラブラドル・レトリバー
- 12 回 犬種学習⑦-バグ、ウェルシュ・コーギー・ペンブローク、
- 13 回 犬種学習⑧-パピヨン、ビションフリーゼ
- 14 回 犬種学習⑨-ジャック・ラッセル・テリア、ボーダー・コリー
- 15 回 犬種学習⑩-ベキニーズ、イタリアン・グレーハウンド
- 16 回 犬種学習⑪-ミニチュア・ピンシャーグループ分け/復習・試験対策
- 17 回 犬種学習⑫-キャバリア・キングチャールズ・スパニエル、シェットランド・シープドッグ
- 18 回 犬種学習⑬-、ビーグル、ボストン・テリア、アメリカン・コッカー・スパニエル
- 19 回 犬種学習⑭-シベリアン・ハスキー、日本スピッツ、パーニーズ・マウンテン・ドッグ
- 20 回 犬種学習⑮-ブルドッグ、ジャーマン・シェパード・ドッグ、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア
- 21 回 犬種学習⑯-秋田、イングリッシュ・コッカー・スパニエル、ドーベルマン
- 22 回 犬種学習⑰-ボルゾイ、ダルメシアン、グレート・ピレニーズ
- 23 回 犬種学習⑱-、仲、フラットコートド・レトリバー、サモエド、ワイマラナー
- 24 回 犬種学習⑲-ラフ・コリー、ロットワイラー、ノーフォーク・テリア
- 25 回 犬種学習⑳-ミニチュア・ブル・テリア、ボクサー、セント・バーナード
- 26 回 犬種学習㉑-チャイニーズ・クレストド・ドッグ、チャウチャウ、アイリッシュ・セター、  
コーイケルホンディエ
- 27 回 犬種学習㉒-、ニューファンドランド、グレート・デーン、ワイアー・フォックス・テリア、  
バセット・ハウンド
- 28 回 犬種学習㉓-、オーストラリアン・シェパード、サルーキ、オールド・イングリッシュ・シー  
プドッグ
- 29 回 犬種学習㉔-、ケアーン・テリア、イングリッシュ・スプリンガー・スパニエル、エアデー  
ル・テリア、アフガン・ハウンド

30 回 復習、まとめ、試験対策

#### 授業の方法

教科書に沿っての犬種に関する内容の講義

#### 教材

若山正之監修『まるごとわかる犬種図鑑』発行所：株式会社 Gakken 発行年：2023 年

ISBN978-4-05-802066-1

#### 評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%

#### 授業外での学習方法

- ・授業前に事前学習として対象の犬種の様々な画像を各自スマホやタブレット等で検索してしておく
  - ・日常生活で犬を見たら犬種名を言えるようにする（わからない場合は調べるもしくは飼い主に確認）
- ノートに記録する、事前に得た情報をまとめておく

#### 実務経験と授業科目の関係

専門学校にて犬に関する知識習得後、ショップにて接客内で飼い主へのアドバイス、専門学校にて実習授業補助など実際に犬と関わった経験をもとに授業に活かします。

# ドッグトレーニング概論実習

## 授業の目的・概要

犬を扱う仕事（トリマー、ペットショップ、動物看護師、ドッグトレーナー）をする上で必要な知識を身につけるために犬の生態、特質、犬種のもつ特性を理解し犬を正しく扱えるようになる。また家庭犬としてのしつけに必要な知識と技術を得る。

|      |          |         |        |
|------|----------|---------|--------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 田村 亜理沙 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | ○      |
| 対象年次 | 1年       | 年間単位数   | 2単位    |

## 目標

### 前期

犬の歴史と進化、家畜化について理解することができる。

犬の生態、習性や行動を理解することができる。

### 後期

犬のボディランゲージやサインを理解し、犬とのコミュニケーション技術を習得できる。

人と犬との生活のルールやマナーを構築していく為の知識をつける。

## 授業計画

- 第1週 実習の諸注意、班分け。
- 第2週 犬の歴史
- 第3週 犬の進化
- 第4週 家畜化とは
- 第5週 犬の生得的本能
- 第6週 犬の素因
- 第7週 犬種の特徴
- 第8週 特質について
- 第9週 犬の素因と育つ環境の相互作用
- 第10週 犬の脳と行動の関係
- 第11週 子犬の成長過程1（パピー～幼犬）
- 第12週 子犬の成長過程2（成犬～老犬）
- 第13週 犬の思春期がもたらす行動の変化
- 第14週 犬の群れの階級とは

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 第15週 | 犬のボディランゲージ/同種同士のコミュニケーション    |
| 第16週 | 実技テスト（前半）・練習                 |
| 第17週 | 実技テスト（後半）・練習                 |
| 第18週 | ボディランゲージ1                    |
| 第19週 | ボディランゲージ2                    |
| 第20週 | 犬のストレス                       |
| 第21週 | 犬の威嚇、攻撃行動                    |
| 第22週 | カーミングシグナル1                   |
| 第23週 | カーミングシグナル2                   |
| 第24週 | 犬のパーソナルスペース                  |
| 第25週 | 犬と人との暮らしについて/犬を飼うことのリスクとメリット |
| 第26週 | 家庭犬の選び方/家庭犬のしつけとは            |
| 第27週 | 犬の去勢と避妊について/多頭飼育について         |
| 第28週 | 犬の飼い主の為のリーダーシップ教育とは/リードプログラム |
| 第29週 | リードプログラム                     |
| 第30週 | ハウストレーニングとトイレトレーニング          |
| 第31週 | 甘噛み・いたずら噛み                   |
| 第32週 | 子供のいる家庭での犬との関係づくり            |
| 第33週 | 嫌悪刺激によるトレーニングの弊害と動物虐待、暴力の連鎖  |
| 第34週 | 実技テスト（前半）・練習                 |
| 第35週 | 実技テスト（後半）・練習                 |

#### 授業の方法

座学、実際に犬を使っている実技実習

#### 教材

テキスト、DVD 等

#### 評価の方法

試験 80%、実習記録ファイル評価 20%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

実習犬の散歩等を通して、犬の管理や取扱い

#### 実務経験と授業科目の関係

あり、陽性強化法を用いた訓練を通し、正しい犬との関係性の構築の仕方を教える

## 家畜学

### 授業の目的・概要

本授業では、産業動物として飼育される家畜について基礎的な知識を学び、家畜の特性や飼育管理方法を理解することを目的とする。ウシ、ブタ、ウマ、ニワトリを中心に、それぞれの体の構造や生理的特徴、品種、飼育施設、栄養管理、疾病について学習する。また、家畜伝染病予防法を含む疾病管理や衛生管理について理解を深め、安全で適切な飼育方法を身につける。講義を通して、家畜に関する知識だけでなく、動物福祉や畜産業への理解を深め、動物業界で必要となる基礎的な専門性を養うことを目指す。

|      |          |         |           |
|------|----------|---------|-----------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 1名        |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | 観光牧場飼育員4年 |
| 対象年次 | 1年次      | 年間単位数   | 1単位       |

### 目標

#### 前期

家畜動物についての概要、ウシの体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病およびブタについてのウシの体の特徴について理解することができる。

#### 後期

ブタ飼育に関する知識、生産物や疾病およびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解することができる。

### 授業計画

- 1回 家畜動物の定義について
- 2回 ウシの概要について（ウシとは）
- 3回 ウシの概要について（ウシとは）、ウシの体の構造について（前軀）
- 4回 ウシの体の構造について（後軀）

- 5回 ウシの体の構造について（内臓、生理的特徴）
- 6回 ウシの品種について、ウシの飼育について
- 7回 ウシの飼育について（施設について）
- 8回 ウシの飼育について（餌、栄養について）
- 9回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法）
- 10回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法対象外の疾病について）
- 11回 ブタの概要について
- 12回 ブタの体の構造について（前軀）
- 13回 ブタの体の構造について（後軀）
- 14回 ブタの飼育について（施設について）
- 15回 ブタの飼育について（餌、栄養について）
- 16回 ブタの疾病について
- 17回 前期試験
- 18回 前期試験返却/フィードバック
- 17回 ウマの概要について
- 18回 ウマの体の構造について（前軀）
- 19回 ウマの体の構造について（後軀）
- 20回 ウマの品種について（軽種、中間種）
- 21回 ウマの品種について（重種、ポニーなど）、ウマの飼育について（施設について）
- 22回 ウマの飼育について（餌について）
- 23回 ウマの飼育について（用品について）
- 24回 ウマの疾病について（蹄に関わる疾病）
- 25回 ウマの疾病について（蹄以外の疾病）
- 26回 ニワトリの概要について
- 27回 ニワトリの体の構造について
- 28回 ニワトリの品種について

29 回 ニワトリの飼育について

30 回 ニワトリの疾病について

33 回 後期試験

34 回 後期試験返却/フィードバック

35 回 1 年間の総まとめ

#### 授業の方法

板書した内容を教科書・自作プリントを用いて内容を解説していく。

#### 教材

農学基礎セミナー 新版家畜飼育の基礎

⇒著者：阿部 亮、発行日：2014 年 1 月 15 日 第 6 刷発行

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをまとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

#### 実務経験と授業科目の関係

観光牧場にてウマの飼育管理及びウシ・ブタ・ヒツジ・ヤギ・ラマなどが飼養される環境で勤務していたため、家畜動物の知識・技術を教えることができる。動物園にて実務経験あり。

# 基礎健康管理学 A

## 授業の目的・概要

本授業では、犬や猫を中心とした伴侶動物の健康管理に必要な基礎知識と技術を習得することを目的とする。犬・猫の歴史や品種ごとの特徴、現在の飼育状況、使役動物について学ぶとともに、食事や栄養管理、中毒予防など健康維持に関する知識を深める。また、ハンドリングや保定、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、身体検査などの基本的な看護・観察技術について理解を深め、動物の状態を適切に把握する力を養う。講義を通して、動物福祉への理解と安全管理意識を高め、動物業界で必要となる基礎的な健康管理能力の習得を目指す。

|      |          |         |     |
|------|----------|---------|-----|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 田中  |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | ○   |
| 対象年次 | 1年       | 年間単位数   | 1単位 |

## 目標

### 1学期

犬猫の歴史や家畜化について理解することができる。

ライフステージに合った栄養や食事管理が必要な疾患について理解することができる。

### 2学期

基本的な犬猫のハンドリングや保定法を学び、実践できるようになる。

正常なバイタルサイン、フィジカルアセスメントを学び、異常に早く気付くことができるようになる。

## 授業計画

- 1回 授業について
- 2回 犬の歴史①
- 3回 犬の歴史②
- 4回 品種とその特徴
- 5回 猫の歴史①
- 6回 猫の歴史②
- 7回 品種とその特徴
- 8回 現在の飼育状況
- 9回 使役動物について
- 10回 身体障害者補助犬やその他の使役犬①

- 11 回 身体障害者補助犬やその他の使役犬②
- 12 回 食事と栄養①
- 13 回 食事と栄養②
- 14 回 栄養管理
- 15 回 栄養補給
- 16 回 前期試験
- 17 回 中毒の危険のある食べ物
- 18 回 試験返却
- 19 回 犬のハンドリング
- 20 回 猫のハンドリング
- 21 回 保定について①
- 22 回 保定について②
- 23 回 保定について③
- 24 回 動物に合わせた保定
- 25 回 バイタルサインについて①
- 26 回 バイタルサインについて②
- 27 回 バイタルサインについて③
- 28 回 フィジカルアセスメント①
- 29 回 フィジカルアセスメント②
- 30 回 身体検査について①
- 31 回 後期試験
- 32 回 身体検査について②
- 33 回 試験返却
- 34 回 身体検査について③
- 35 回 総復習

#### 授業の方法

講義、グループワーク

#### 教材

プリント、教科書（コンパニオンアニマルの健康管理学）

#### 評価の方法

80%、20%

|                         |
|-------------------------|
| 授業外での学習方法               |
| 授業用のプリントと教科書を各自見直し、纏める。 |

|              |
|--------------|
| 実務経験と授業科目の関係 |
| あり           |

# 基礎健康管理学Ⅰ

## 授業の目的・概要

本授業では、犬・猫を中心とした伴侶動物の健康維持に必要な基礎知識を学び、適切な飼養管理方法を理解することを目的とする。犬・猫の飼養管理や全身のお手入れ、デンタルケア、ワクチン接種、フィラリア・寄生虫予防、不妊手術の必要性などについて学習し、健康管理に必要な知識を身につける。また、狂犬病予防法や登録制度についても理解を深めるとともに、エキゾチックアニマルの飼養管理についても学ぶ。講義を通して、疾病予防や衛生管理への意識を高め、動物福祉に配慮した適切な健康管理ができる基礎力を養うことを目指す。

|      |          |         |     |
|------|----------|---------|-----|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 田中  |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | ○   |
| 対象年次 | 1年       | 年間単位数   | 1単位 |

## 目標

### 1学期

- ・犬や猫の日常的な健康管理と予防について理解することができる。
- ・正常時と異常時の違いを理解することで、異常時に早く気づき、対応できる。

### 2学期

- ・1学期に引き続き健康学と予防について理解することができる。
- ・またそれらを基礎とし、様々な疾患について理解することができる。
- ・犬猫だけでなくエキゾチックアニマルの飼養管理ができる。

## 授業計画

- 1回 授業について
- 2回 犬の飼養管理①
- 3回 犬の飼養管理②
- 4回 猫の飼養管理①
- 5回 猫の飼養管理②
- 6回 全身のお手入れ(目)

- 7回 全身のお手入れ（耳）
- 8回 全身のお手入れ（皮膚）
- 9回 全身のお手入れ（爪・肛門周り）
- 10回 全身のお手入れ（口）
- 11回 デンタルケア①
- 12回 デンタルケア②
- 13回 フィラリア予防①
- 14回 フィラリア予防②
- 15回 ワクチンの必要性
- 16回 前期試験
- 17回 犬の登録、狂犬病について
- 18回 試験返却
- 19回 混合ワクチン（犬）①
- 20回 混合ワクチン（犬）②
- 21回 混合ワクチン（猫）
- 22回 ノミ・マダニ予防①
- 23回 ノミ・マダニ予防②
- 24回 その他外部寄生虫について①
- 25回 その他外部寄生虫について②
- 26回 内部寄生虫について①
- 27回 内部寄生虫について②
- 28回 不妊手術の必要性①
- 29回 不妊手術の必要性②
- 30回 エキゾチックアニマルの飼養管理①
- 31回 後期試験
- 32回 エキゾチックアニマルの飼養管理③
- 33回 試験返却
- 34回 エキゾチックアニマルの飼養管理③
- 35回 総復習

#### 授業の方法

講義、グループワーク

#### 教材

自作プリント、教科書（コンパニオンアニマルの健康管理学・

評価の方法

80%、20%

授業外での学習方法

授業に使用したプリントと教科書を各自見直し、纏める。

実務経験と授業科目の関係

あり

## 基礎生物学

### 授業の目的・概要

将来向き合うことになる動物たちの身体の仕組み・生態・疾患を理解するうえで必要な生物学の基礎知識を学ぶ。また、愛玩動物看護師国家試験の出題範囲に対応した問題演習を並行して行うことで自信を持って国家試験に臨める土台作りを行う。

|      |          |         |         |
|------|----------|---------|---------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 三輪 喬太   |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | 獣医師（8年） |
| 対象年次 | 1年       | 年間単位数   | 1単位     |

### 目標

生物学の中でも、獣医療の基礎となる動物形態機能学に則した、細胞の仕組みと働き、遺伝情報、動物の体内環境、動物の反応と行動、に関する分野を理解し、知識として応用できるようにする。

### 授業計画

#### 【前期】

- 第1回 光学顕微鏡の構造と名称、顕微鏡の種類と特徴
- 第2回 細胞と細胞膜の構造
- 第3回 細胞小器官の名称と役割
- 第4回 動物の組織、器官系
- 第5回 遺伝情報（DNA、RNA）
- 第6回 体細胞分裂
- 第7回 減数分裂
- 第8回 遺伝情報の発現 1（転写～スプライシング）
- 第9回 遺伝情報の発現 2（翻訳～タンパク質の合成）
- 第10回 ホメオスタシスと体内の情報伝達

第 1 1 回 体性神経と自律神経

第 1 2 回 自然免疫

第 1 3 回 獲得免疫 1 (体液性免疫)

第 1 4 回 獲得免疫 2 (細胞性免疫)

第 1 5 回 エイズ、アレルギー

第 1 6 回 前期試験

第 1 7 回 前期のまとめ・調べ学習

第 1 8 回 試験返却・試験の振り返り / 生体物質

【後期】

第 1 9 回 代謝と ATP

第 2 0 回 消化系

第 2 1 回 骨格系と愛玩動物の椎骨式

第 2 2 回 筋肉系 1 (筋の種類と収縮)

第 2 3 回 筋肉系 2 (骨格筋の各名称)

第 2 4 回 外皮系

第 2 5 回 循環器系

第 2 6 回 呼吸器系と肝臓

第 2 7 回 泌尿器系

第 2 8 回 感覚器 1 (視覚)

第 2 9 回 感覚器 2 (聴覚、平衡覚)

第 3 0 回 感覚器 3 (嗅覚、味覚、皮膚感覚)

第 3 1 回 後期試験

第 3 2 回 後期のまとめ・調べ学習

第 3 3 回 試験返却・試験の振り返り

第 3 4 回 内分泌系 (内分泌腺)

第 3 5 回 内分泌系 (主なホルモン)

#### 授業の方法

黒板への板書。必要に応じてプリントの配布を行い追加の説明を行う。

また単元ごとに、国家試験形式の問題演習を数問実施する。

#### 教材

二訂版ニューステージ生物図表（株式会社浜島書店、発行 2024 年 2 月 5 日、ISBN 978-4-8343-4017-4）

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻(株式会社 EDUWARD Press、発行 2023 年 7 月 31 日、ISBN 978-4-86671-155-3)

#### 評価の方法

成績評価は 100 点満点で行う。

内訳:期末試験 80%（前期/後期試験）、授業への参画 20%で、総合的に評価する。

以上の評価方法については、初回の授業で学生に周知し、公平性を期す。

#### 授業外での学習方法

事前学習: シラバスを確認し次回の授業内容の予習を行う。

事後学習: 授業後半に配る問題演習とその復習を行う。

#### 実務経験と授業科目の関係

生物学を基礎とする獣医療現場における実務経験を活かす。

# 公衆衛生学Ⅰ

## 授業の目的・概要

動物看護師として必要な人と動物の健康保持・推進のための専門的知識を身につける。また、近年環境破壊等の人間活動を原因とする新興感染症・再興感染症の台頭が地球規模で問題となっており、これらの多くが人獣共通感染症であることから、人、動物、環境のかかわりについてグローバルな視点を持った人物になれるよう学習をすすめる。

|      |          |         |        |
|------|----------|---------|--------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 花木 久実子 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | ○      |
| 対象年次 | 1年       | 年間単位数   | 1      |

## 目標

公衆衛生の基本となる国民衛生の動向や疫学調査について学ぶ。さらに感染症の基本的知識（疫学、病原体、感染、免疫、防疫等）やおもな細菌性・ウイルス性・寄生虫性人獣共通感染症、食中毒等の各論について発生・感染源・流行・予防措置等を学ぶことにより、人と動物を共に感染症から守るための対策を講じ、周囲に対する啓発活動ができるようになる。さらに地球環境問題に対する意識をもって人獣共通感染症の問題点を考えられるようになる。

## 授業計画

- 1回 公衆衛生とは
- 2回 国民衛生の動向
- 3回 疫学と疾病予防
- 4回 感染症の基礎1（病原体とは）
- 5回 感染症の基礎2（細菌、真菌、ウイルス、寄生虫）
- 6回 感染症の基礎3（感染成立の要因、免疫、予防）
- 7回 人獣共通感染症総論
- 8回 細菌性人獣共通感染症各論1（ペスト、結核、炭疽、野兔病、ブルセラ症、細菌性赤痢等）
- 9回 細菌性人獣共通感染症各論2（腸管出血性大腸菌感染症、破傷風、猫ひっかき病等）
- 10回 細菌性人獣共通感染症各論3（レプトスピラ病、カンピロバクター症、Q熱等）
- 11回 細菌性人獣共通感染症各論4（つつが虫病、オウム病、紅斑熱群リケッチア症等）
- 12回 寄生虫性人獣共通感染症各論1（原虫）
- 13回 寄生虫性人獣共通感染症各論2（線虫）
- 14回 寄生虫性人獣共通感染症各論3（吸虫）

- 15 回 寄生虫性人獣共通感染症各論 3 (条虫)
- 16 回 前期まとめ
- 17 回 感染症と免疫について
- 18 回 試験返却、解説
- 19 回 ウイルス性人獣共通感染症各論 1 (ウイルス性出血熱、日本脳炎等)
- 20 回 ウイルス性人獣共通感染症各論 2 (デング熱、黄熱、ジカウイルス感染症等)
- 21 回 ウイルス性人獣共通感染症各論 3 (重症熱性血小板減少症候群、鳥インフルエンザ等)
- 22 回 ウイルス性人獣共通感染症各論 4 (COVID-19 感染症、B ウイルス感染症等)
- 23 回 狂犬病
- 24 回 真菌性人獣共通感染症、公衆衛生上重要な衛生昆虫
- 25 回 新興感染症・再興感染症について
- 26 回 食中毒 1 (原因、発生状況、予防)
- 27 回 食中毒 2 (細菌性食中毒)
- 28 回 食中毒 3 (ウイルス性食中毒、寄生虫性食中毒)
- 29 回 食中毒 4 (自然毒による食中毒)
- 30 回 食品衛生法の概要 1 (法の目的、食品の規格基準等)
- 31 回 食品衛生法の概要 2 (食品衛生監視員、HACCP 等)
- 32 回 後期まとめ
- 33 回 後期試験
- 34 回 感染症を発する病原体
- 35 回 試験返却、解説

#### 授業の方法

パワーポイントによる講義

#### 教材

授業前に資料を配布する

#### 評価の方法

期末試験 60%、レポート 20%、授業態度 20%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

厚生労働省のウェブサイト等により人獣共通感染症や食中毒に関する基礎知識を予習しておく。  
 実際に発生した感染症や食中毒に関するニュース等を日常的にチェックしてノートにまとめておく。  
 また、授業内容で疑問に思ったこと、興味を持ったことを整理しておく。

#### 実務経験と授業科目の関係

公衆衛生獣医師として自治体保健所や監視事務所等において食品衛生、環境衛生、動物衛生及び感染症予防業務に従事した経験に基づき理論的かつ実践的な授業を行う。

## 生体管理概論実習

### 授業の目的・概要

本授業では、動物業界に必要な生体管理の基礎知識と実践技術を習得することを目的とする。水槽機材の種類や使用方法、水槽の立ち上げ・メンテナンス、水質管理、魚類の病気や給餌方法などのアクアリウム管理技術を学ぶとともに、ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット、コンパニオンバードなど多様な小動物を対象に、掃除・給餌・健康チェックを実践的に学習する。実習を通して、生体の健康維持に必要な観察力や衛生管理能力、安全な取り扱い方法を身につけ、動物福祉を意識した適切な飼育管理ができる人材の育成を目指す。

|      |          |         |       |
|------|----------|---------|-------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 金田・姉崎 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | ○     |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 2 単位  |

### 目標

飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測をおこない、常に万が一のことを考えて行動することができるようになる。一緒に活動するメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談ができるようになる。

### 授業計画

|     |          |                                         |
|-----|----------|-----------------------------------------|
| 1 週 | 生体管理について | 班決め、水槽機材の種類                             |
| 2 週 | 生体管理について | 内容説明                                    |
| 3 週 | 地下管理について | 水槽機材について（種類、概要）                         |
| 4 週 | 生体管理について | 施設紹介                                    |
| 5 週 | 地下管理実習   | 水槽の立ち上げ方、水槽のレイアウトについて                   |
| 6 週 | 飼育棟実習    | 掃除・給餌・健康チェックの方法について実践（ゴールデンハムスターについて）   |
| 7 週 | 地下管理実習   | 水槽のメンテナンスについて（サイフォンの定理、水換え）             |
| 8 週 | 飼育棟実習    | 掃除・給餌・健康チェックの方法について実践（ジャンガリアンハムスターについて） |

|      |        |                                          |
|------|--------|------------------------------------------|
| 9 週  | 地下管理実習 | 水槽のメンテナンスについて（ろ材フィルター、ろ過について）            |
| 10 週 | 飼育棟実習  | 掃除・給餌・健康チェックの方法について実践（モルモットについて）         |
| 11 週 | 地下管理実習 | 水槽のメンテナンスについて（コケの種類と掃除）                  |
| 12 週 | 飼育棟実習  | 掃除・給餌・健康チェックの方法について実践（ウサギについて）           |
| 13 週 | 地下管理実習 | 餌の種類と特性                                  |
| 14 週 | 飼育棟実習  | 掃除・給餌・健康チェックの方法について実践（ラットについて）           |
| 15 週 | 地下管理実習 | 餌のやり方について                                |
| 16 週 | 前期期末試験 | 試験実施                                     |
| 17 週 | 地下管理実習 | 前期内容復習                                   |
| 18 週 | 試験返却   | 試験返却、解説                                  |
| 19 週 | 地下管理実習 | 魚の病気について（白点病の原因と対処）                      |
| 20 週 | 飼育棟実習  | 試験返却、解説                                  |
| 21 週 | 地下管理実習 | 魚の病気について（おぐされ病の原因と対処）                    |
| 22 週 | 飼育棟実習  | 掃除・給餌・健康チェックについての方法について実践（デグーマウスについて）    |
| 23 週 | 地下管理実習 | 魚の病気について（その他の病気の原因と対処）                   |
| 24 週 | 飼育棟実習  | 掃除・給餌・健康チェックについての方法について実践（チンチラについて）      |
| 25 週 | 地下管理実習 | 水量計算について（水槽のサイズや規格について）                  |
| 26 週 | 飼育棟実習  | 掃除・給餌・健康チェックについての方法について実践（ヨツユビハリネズミについて） |
| 27 週 | 地下管理実習 | 水量計算について（実践問題演習）                         |
| 28 週 | 飼育棟実習  | 掃除・給餌・健康チェックについての方法について実践（フェレットについて）     |
| 29 週 | 地下管理実習 | 自分たちの飼育魚について知ろう（カラシン、コイ）                 |
| 30 週 | 飼育棟実習  | 掃除・給餌・健康チェックについての方法について実践（コンパニオンバードについて） |
| 31 週 | 地下管理実習 | 自分たちの飼育魚について知ろう（ナマズ、メダカ）                 |
| 32 週 | 後期試験   | 試験実施                                     |
| 33 週 | 地下管理実習 | 後期内容復習                                   |
| 34 週 | 試験返却   | 試験返却、解説                                  |
| 35 週 | 地下管理実習 | 水槽の片付け方、生体の移動の仕方について                     |

#### 授業の方法

地下管理実習：淡水魚の飼育管理に必要な知識を 1 時間講義し、地下の水族館で 1 時間、実際に生体の飼育を実践する。

飼育棟実習：小動物を中心に飼育管理に必要な知識を説明しながら生体の飼育管理実習を実践する。

#### 教材

教科書（はじめての熱帯魚飼育）

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%

授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをまとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

姉崎：本校での勤務 2 年間 東海大学海洋学部環境社会学科卒業、水族館での実習経験あり

金田：観光牧場での勤務 4 年、動物園ふれあい広場実務経験あり

## 動物栄養学Ⅰ

### 授業の目的・概要

本授業は、犬・猫を中心とした動物栄養学の基礎から応用までを体系的に理解することを目的とする。前半では栄養素、食性、フードの種類や製造、法規制、給与量の算出など基礎知識と評価方法を学び、後半では慢性疾患や代謝疾患に対する栄養管理、経腸・経口栄養法、強制給餌など臨床現場で必要な栄養サポート技術を修得する。さらに症例に応じた栄養診断と実践的判断力を養い、動物看護の現場で適切な栄養管理を提案できる能力を身に付ける。

|      |          |         |           |
|------|----------|---------|-----------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 河島英二      |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | 臨床獣医師 6 年 |
| 対象年次 | 1 年次     | 年間単位数   | 1 単位      |

### 目標

犬・猫の基礎栄養、栄養評価法及びフード(法規制を含む)について知識を習得することができる。  
犬・猫の理想体重の栄養診断を行い、適正給餌量やフードの選択を学び、各種疾患に合わせた栄養管理法とその手法を習得することができる。

### 授業計画

- 1 回 犬・猫の基礎栄養～栄養と栄養素
- 2 回 犬猫の食性、摂食行動、嗜好性、異嗜、摂食量、飲水量
- 3 回 犬や猫に与えてはいけない食材・添加物(禁忌食)
- 4 回 栄養評価法～犬と猫のエネルギー評価法
- 5 回 犬と猫の栄養要求量ガイドライン
- 6 回 犬と猫のライフステージと栄養
- 7 回 犬と猫の栄養状態評価法
- 8 回 フード～ペットフードの歴史
- 9 回 ペットフードの種類
- 10 回 ペットフードの製造方法
- 11 回 ペットフードに使用される原料
- 12 回 サプリメント
- 13 回 ペットフードの法規制
- 14 回 栄養指導～栄養診断“この子の理想体重は?”
- 15 回 適正給与量“どのくらいフードを与えれば良いのか?”、フードの選択“どんなフードを与えれば良いのか?”、肥満
- 16 回 前期期末試験

- 17 回 前期期末試験返却、解説
- 18 回 疾患と栄養の関係～慢性腎臓病の栄養管理
- 19 回 尿石症の栄養管理
- 20 回 心血管系疾患の栄養管理
- 21 回 消化器疾患の栄養管理
- 22 回 肝疾患の栄養管理
- 23 回 糖尿病の栄養管理
- 24 回 皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理
- 25 回 栄養管理～非経腸栄養法の疾患と実施の方法
- 26 回 経口栄養剤の成分と利用法
- 27 回 強制給餌法
- 28 回 経胃栄養剤と経腸栄養剤の成分・利用法
- 29 回 設置したカテーテル/チューブの維持管理法
- 30 回 食事管理失宜による症状および対応方法
- 31 回 補講 1
- 32 回 補講 2
- 33 回 補講 3
- 34 回 後期期末試験
- 35 回 後期期末試験返却、解説

#### 授業の方法

講義形式で進めていく。

#### 教材

EDUWARD Press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻  
MARK MORRIS INSTITUTE 小動物の臨床栄養学 第 5 版

#### 評価の方法

期末試験 80%、出席率 20%(出席率、授業態度等)で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事前学習として、各回のテーマに関連する教科書範囲を読み、栄養素や疾患、フードの基礎用語を整理する。  
事後学習として、授業内容をノートにまとめ直し、症例や計算問題を復習することで理解を深め、実践的な栄養評価・栄養管理の知識を定着させる。

#### 実務経験と授業科目の関係

犬・猫の栄養管理や疾患別の食事療法について、実際の症例に基づいた具体的な知識を学ぶことができる。また、診察現場での判断基準や飼い主への栄養指導の実際など、教科書だけでは得られない臨床的視点を交えて理解を深め、国家資格取得後に即戦力として活躍するための実践力を養うことができる。

## 動物解剖生理学 I

### 授業の目的・概要

解剖生理学は生命科学を学ぶ上での根幹的分野であり、臨床系は言うに及ばず、他の基礎系を学ぶ上でもまず修得しておかねばならない知識である。その意味で、他教科でも重要視される項目をまず出来るだけ初期に学習し、順次身体の各分野項目へと広げていく。また、内容的には、どの項目でも最低知っておかねばならない知識の修得を最優先に、まずは「広く」各組織の全体像を理解してゆく。

|      |          |         |             |
|------|----------|---------|-------------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 水澤 栄雄       |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | 臨床獣医師歴 35 年 |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 2 単位        |

### 目標

医療系分野全ての礎となる科目であり、その意味で学生は全身の各組織・器官につき、出来る限りくまなく形状及び機能を理解することが当然必要となる。そして、この教科は従来「解剖学」と「生理学」を一つの教科として組み合わせたものであるから、さらに各部位の形態と機能を並行してずれることなく学ぶことが理想と言えよう。ただし、互いを関係づける場合にどちらがより主導的な分野となるかを考えた場合は、自らの経験からも機能分野つまり「機能学」がより重要となると思う。従って、学生方にはまず各部位の機能つまり「働き」の理解を第一に、そして次の段階でその機能に準じた形態へ理解が向いていくように学習してもらいたい。

### 授業計画

#### 前期

- 1 週 序章 細胞・組織（1）：解剖生理学を学ぶ意義、細胞の基本構造
- 2 週 細胞・組織（2）：細胞小器官の構造と機能（前）
- 3 週 細胞・組織（3）：細胞小器官の構造と機能（後）
- 4 週 細胞分裂と遺伝子（1）：細胞分裂と遺伝子の基本

|           |                                     |
|-----------|-------------------------------------|
| 5 週       | 細胞分裂と遺伝子（2）：DNA と RNA の構造と機能        |
| 6 週       | 細胞分裂と遺伝子（3）：セントラルドグマ、DNA の複製        |
| 7 週       | 上皮組織：上皮組織の構造と機能                     |
| 8 週       | 腺組織・支持組織（1）腺組織の構造と機能                |
| 9 週       | 腺組織・支持組織（2）支持組織の構造と機能               |
| 10 週      | 血液（1）：血液の機能と赤血球の働き                  |
| 11 週      | 血液（2）：白血球の機能                        |
| 12 週      | 血液（3）：血小板と造血機能                      |
| 13 週      | 血液（4）：血漿と血漿蛋白                       |
| 14 週      | 循環器系（1）：血液循環、心臓の形態と機能（前）            |
| 15 週      | 循環器系（2）：心臓の形態と機能（後）                 |
| 16 週      | 前期試験                                |
| 17 週      | 前期試験返却/フィードバック                      |
| <b>後期</b> |                                     |
| 16 週      | 循環器系（3）：心電図、血管、リンパ管                 |
| 17 週      | 神経系（1）：神経の機能、神経細胞の形態と機能             |
| 18 週      | 神経系（2）：中枢神経系（1）                     |
| 19 週      | 神経系（3）：中枢神経系（2）、末梢神経                |
| 20 週      | 呼吸器系（1）：呼吸器系の機能、上部気道（咽頭、喉頭、気管）      |
| 21 週      | 呼吸器系（2）：気管支、肺、胸郭、気嚢                 |
| 22 週      | 内分泌系（1）：内分泌系の機能、下垂体ホルモン             |
| 23 週      | 内分泌系（2）：甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン、副腎皮質ホルモンなど |
| 24 週      | 内分泌系（3）：性ホルモン、その他のホルモン              |
| 25 週      | 消化器系（1）：口腔、食道、歯                     |
| 26 週      | 消化器系（2）：胃、胆嚢、膵臓、                    |
| 27 週      | 消化器系（3）：小腸・大腸                       |
| 28 週      | 骨・骨格（1）：骨の構造（1）                     |
| 29 週      | 骨・骨格（2）：骨の構造（2）、骨格のしくみ（1）           |
| 30 週      | 骨・骨格（3）：体のしくみ（2）                    |
| 33 週      | 後期試験                                |
| 34 週      | 後期試験返却/フィードバック                      |
| 35 週      | 1 年間の総まとめ                           |

#### 授業の方法

教科書を基とした自作の p.p のテキストを利用した講義を行う。適時小テストを行う。（テストの実施時は授業の進行により調整する。）

#### 教材

主体は自作テキストであるが、参考書籍として、

- ・ EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 「動物形態機能学」
- ・ 家畜比較解剖図譜（養賢堂）をはじめ、獣医学系諸教材

#### 評価の方法

- ・ 年間複数回の小テスト（10～15 分程）を授業中に実施し、その平均点をもって総合評価の 30%とする。
- ・ 総合評価は、その他出席点が全評価の 10%で、残りの 60%は定期試験の成績とする。
- ・ 出席の評価は  $100 \times \text{出席率}$  をもって点数化し、さらにそれを全評価点の 10%とする。
- ・ 全評価点 = 出席点  $\times 0.1$  + 小テスト平均点  $\times 0.3$  + 定期試験点数  $\times 0.6$  とし、60 点以上を合格とする。

#### 授業外での学習方法

授業外の学習は基本前回講義の復習に当てる。その成果については複数回の小テストでの判断とする。

#### 実務経験と授業科目の関係

およそ動物医療に係る者であれば、誰しもが持つべき基本科目である。当方も獣医師として数十年臨床に携わってきた身である以上、この教科は謂わば仕事の土台である。

## 動物看護基礎実習

### 授業の目的・概要

本授業では、愛玩動物看護師として必要な基礎的知識と実践技術を習得することを目的とする。動物への適切な接し方や取り扱い方法をはじめ、犬・猫・エキゾチックアニマルの保定技術、身体検査、バイタルサイン測定などの基本的な看護技術を学ぶ。また、診察補助や薬剤の取り扱い、輸液・輸血に関わる技術、尿検査・糞便検査などの検査技術についても実習を通して理解を深める。講義と実習を組み合わせることで、安全管理や動物福祉への意識を高め、現場で求められる観察力・判断力・看護技術を身につけるとともに、国家試験対策にも対応した実践力の養成を目指す。

|      |          |         |                    |
|------|----------|---------|--------------------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 市川 華香（三輪 喬太）       |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | 愛玩動物看護師<br>獣医師 8 年 |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 2 単位               |

### 目標

動物看護の目線になって「見る」から「看る」ができるようになる。

動物を形態的かつ内科的に理解し、動物の小さな異常・異変に気が付けるようになる。

### 授業計画

【前期】

- 第1週 挨拶、職業理解、動物への接し方、看護実習室の確認
- 第2週 動物の扱い方（触り方、抱っこの仕方、ケージからの取り出し方）
- 第3週 動物の運動器について（骨格、関節、内臓の位置、目、歯）
- 第4週 基本保定（座学）
- 第5週 基本保定（実習）
- 第6週 応用保定（座学）
- 第7週 応用保定（実習、犬）
- 第8週 応用保定（実習、猫）
- 第9週 エキゾチックアニマルの保定（座学・実習）
- 第10週 身体検査①（体重、BCS、バイタルサイン（体温・脈拍数））
- 第11週 身体検査②（バイタルサイン（呼吸数・血圧、浅在リンパ節、粘膜色）、）
- 第12週 身体検査③（意識レベル、CRT、脱水、評価の仕方、）
- 第13週 身体検査④（歩様、姿勢、目、歯、皮膚、被毛）
- 第14週 身体検査（実習、犬）
- 第15週 身体検査（実習、猫）
- 第16週 前期試験
- 第17週 身体検査、保定について国家試験対策を行う。
- 第18週 試験返却・試験の振り返り

【後期】

- 第19週 診察補助（注射器の取り扱い）
- 第20週 診察補助（採血時の保定、犬）
- 第21週 診察補助（採血時の保定、猫）
- 第22週 薬剤の取り扱い（薬剤の種類、看護用語）
- 第23週 薬剤の取り扱い（経口投与、静脈内投与）
- 第24週 輸液、輸血に関わる技術（留置針設置の準備、手順）

第 25 週 輸液、輸血に関わる技術（輸液セット、ポンプの準備、手順）

第 26 週 マイクロチップに関わる技術

第 27 週 糞便検査（顕微鏡の取り扱い、糞便検査の手順）

第 28 週 尿検査①（顕微鏡の取り扱い、尿検査の手順）

第 29 週 尿検査②（尿検査評価について）

第 30 週 尿検査、糞便検査③

第 31 週 後期試験

第 32 週 身体検査、保定、診察補助について国家試験対策を行う。

第 33 週 試験返却・試験の振り返り

第 34 週 総復習（前期分）

第 35 週 総復習（後期分）

#### 授業の方法

プロジェクターを用いた講義 50%、実習を用いた授業 50%  
教科書の内容に加え、講師の臨床経験を活用し理解を深める。

#### 教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻（株式会社 EDUWARD Press、発行 2025 年 2 月）  
動物看護実習テキスト第 3 版（株式会社 EDUWARD Press、発行 2023 年 8 月）

#### 評価の方法

成績評価は 100 点満点で行う。その内訳は、前期後期試験 80%/平常点（授業態度、実習記録）20%で、総合的に評価する、なお、評価方法の詳細については、初回の授業で学生に周知し、公平性を期す。

#### 授業外での学習方法

実習記録を毎授業時間ごとに記録し提出。

#### 実務経験と授業科目の関係

動物病院において動物看護師として 7 年間の臨床実務に従事。各種身体検査、臨床検査の補助に数多く携わった経験を活かす。

# 動物関連法規学Ⅰ

## 授業の目的・概要

本授業では、動物業界で必要となる法令や制度について基礎から学び、動物に関わる専門職としての法的知識と倫理観を養うことを目的とする。狂犬病予防法や動物愛護管理法を中心に、動物の飼養管理、感染症対策、動物取扱業の規制、動物虐待に対する罰則、マイクロチップ制度などについて理解を深める。また、動物の死体処理や関連法規についても学び、社会における動物の位置づけや飼い主・事業者の責任について考察する。講義を通して、法令遵守の意識を高め、動物福祉に配慮した適切な対応ができる人材の育成を目指す。

|      |          |         |       |
|------|----------|---------|-------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 井田 竜馬 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | ○     |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 1 単位  |

## 目標

### 前期

法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。

### 後期

動物愛護法を中心に愛玩動物看護師国家試験の範囲に関する事柄や制度について理解できるようになる。

## 授業計画

- 1回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3回 狂犬病予防法（1）狂犬病とは その1
- 4回 狂犬病予防法（2）狂犬病とは その2
- 5回 狂犬病予防法（3）狂犬病清浄国・地域について
- 6回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その1 法の概要、目的
- 7回 狂犬病予防法（5）狂犬病予防法の概要 その2 対象動物、輸入禁止動物（感染症法）
- 8回 狂犬病予防法（6）狂犬病予防法の概要 その3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度
- 9回 狂犬病予防法（7）狂犬病予防法の概要 その4 罰則など
- 10回 動物が亡くなった場合（1）動物や動物の死体の法的立場
- 11回 動物が亡くなった場合（2）廃棄物処理法と化製場法と動物
- 12回 前期試験
- 13回 前期試験返却・解説
- 14回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その1

- 15 回 動物が亡くなった場合 (3) 人の墓に動物を入れることはできるのか その 2
- 16 回 動物愛護法 (1) 法律の成立背景その 1
- 17 回 動物愛護法 (2) 法律の成立背景その 2
- 18 回 動物愛護法 (3) 目的
- 19 回 動物愛護法 (4) 基本原則
- 20 回 動物愛護法 (5) 動物の飼い主の責任 その 1
- 21 回 動物愛護法 (6) 動物の飼い主の責任 その 2
- 22 回 動物愛護法 (7) 動物虐待に対する罰則 その 1
- 23 回 動物愛護法 (8) 動物虐待に対する罰則 その 2
- 24 回 動物愛護法 (9) 動物取扱業の規制 その 1
- 25 回 動物愛護法 (10) 動物取扱業の規制 その 2
- 26 回 動物愛護法 (11) 動物取扱業の規制 その 3
- 27 回 後期試験
- 28 回 後期試験返却、解説
- 29 回 動物愛護法 (12) 動物取扱業の規制 その 4
- 30 回 動物愛護法 (13) 第 2 種動物取扱業、実験動物と産業動物、
- 31 回 動物愛護法 (14) 特定動物 その 1
- 32 回 動物愛護法 (15) 特定動物 その 2
- 33 回 動物愛護法 (16) マイクロチップの装着
- 34 回 動物愛護法 (17) 自治体の役割
- 35 回 1 年総復習

#### 授業の方法

講義

#### 教材

テキスト、自作のプリント

#### 評価の方法

80%、平常点 20% (、等)

#### 授業外での学習方法

1 回 1 回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

#### 実務経験と授業科目の関係

行政書士として長らく動物看護の分野の法律に関わる業務を行っており、愛玩動物看護師免許を所有している実務者でもある。双方の経験を元に、愛玩動物看護師国家試験の出題範囲を中心に法律分野について詳しく解説していく。

## 両生爬虫類学

### 授業の目的・概要

両生類および爬虫類の行動や生活史を中心とした生態などについての基礎的な知識を学び、各分類群の生物学的特徴や環境への適応を理解する。あわせて、種ごとの特性に基づいた取り扱いや飼育・管理に関する知識を身につけ、動物関連分野への就職に必要な基礎的能力を養う。

|      |          |         |      |
|------|----------|---------|------|
| 科    | 動物看護師学科  | 教員      | 阿南 咲 |
| コース  | 動物看護師コース | 教員の実務経験 | -    |
| 対象年次 | 1 年      | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

#### 前期

両生類の分類・生活史・行動生態について具体的に理解し説明できる。

得られた知識から両生類にとって適切な調査方法や飼育方法を選択し、それについて説明できる。

#### 後期

爬虫類の分類・生活史・行動生態について具体的に理解し説明できる。

得られた知識から爬虫類にとって適切な調査方法や飼育方法を選択し、それについて説明できる。

### 授業計画

1 回 オリエンテーション／本講義について

2 回 両生類について

3 回 両生類の分類

4 回 両生類の生活史①

5 回 両生類の生活史②

6 回 両生類の行動生態①

7 回 両生類の行動生態②

- 8回 両生類の調査方法
- 9回 両生類の保全について
- 10回 両生類の飼育環境
- 11回 両生類の飼育方法
- 12回 日本の両生類相
- 13回 世界の両生類相
- 14回 試験対策①
- 15回 試験対策②
- 16回 爬虫類について
- 17回 爬虫類の分類①
- 18回 爬虫類の分類②
- 19回 爬虫類の生活史①
- 20回 爬虫類の生活史②
- 21回 爬虫類の行動生態①
- 22回 爬虫類の行動生態②
- 23回 爬虫類の調査方法
- 24回 爬虫類の保全について
- 25回 試験対策①
- 26回 試験対策②
- 27回 爬虫類の飼育環境
- 28回 爬虫類の飼育方法
- 29回 日本の爬虫類相
- 30回 世界の爬虫類相

パワーポイントによる講義

教材

必要に応じて参考資料を配布する

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

授業外での学習方法

授業後に学習した内容を自身で復習し、ポイントとなる部分や疑問に思った点についてより詳細に調べ、ノートにまとめる

実務経験と授業科目の関係

-